

令和二年（二〇二〇）三月二十六日発行
『大倉山論集』第六十六輯抜刷
（公益財団法人 大倉精神文化研究所）

新出資料からみる帰一協会の全体像
——沿革史資料を中心に——

星
原
大
輔

新出資料からみる婦一協会の全体像 ―沿革史資料を中心に―

星 原 大 輔

目 次

はじめに

一 婦一協会の会員について

二 活動後期における婦一協会例会について

三 婦一協会規約の改正について

おわりに

資料一 「婦一協会会員一覧」稿

資料二 昭和四年度から昭和一五年度までの「婦一協会
例会での講演者一覧」

はじめに

前号『大倉山論集』第六五輯の「大倉邦彦の社会貢献とその理念―新出資料の翻刻紹介―」において、大倉精神文化研究所創立者・大倉邦彦が昭和一〇年（一九三五）一月二十九日、婦一協会主催の例会で行った講演録（演題「学生並に成年者の精神教育―東洋的なものを求めて―」を翻刻掲載した。婦一協会（以下、協会と略記する）とは、日本女子大学創立者の成瀬仁蔵が中心となり、明治四五年（一九一二）六月二〇日に発足した国際的学術文化交流団体で、宗教・道徳の研究と諸宗教の相互理解・協力の推進を目的に、研究会・出版・公開講演会などの事業を行った^①とされている。大倉邦彦（以下、邦彦と略記する）は会員^②で、なおかつ義祖父の大倉孫兵衛、義父の大倉文二もまた会員であった^③。そのため当研究所では、大倉家と協会との関係及び協会の活動に関心を寄せ、史料や文献の収集に努めている。

平成三〇年（二〇一八）二月、見城悌治他編『婦一協会の挑戦と洪澤栄一』（ミネルヴァ書房）が刊行された。同書には協会の活動や主要会員の思想等に関する一〇本の研究論文とコラムなどが収録されており、様々な示唆を得た。しかし、巻末にある「婦一協会例会での講演者一覧」が昭和八年（一九三三）四月までとなっているのを見て疑問を抱いた。その理由の一つは前掲の講演記録が揭示されていないためで、もう一つは最近整理した所蔵資料に、昭和八年以降実施された例会の年月日や講演者及び論題が記されていたためである。

そこで改めて先行研究を確認してみると、洪澤栄一が死去した昭和六年（一九三一）以降、具体的な活動内容を確認できる資料が乏しいことから、協会は「休眠状態^④」にあったというのが通説となっていた。つまり研究所所蔵の関

資料番号	資料名	概要
1 12724-48	婦一協会 趣旨、意見書、決議、宣言並規約、講演題目、会員名簿並出版目録（大正13年（1924）12月）	『洪沢栄一伝記資料』第46巻に収録されている「趣旨、意見書、決議、宣言並規約会員名簿並出版目録」（679-681頁）と同一のものと推定される
2 8717	婦一協会 趣旨・意見書・決議・宣言並規約・会員名簿並出版目録（昭和6年（1931）1月）	表紙に「昭和六年一月改訂」と印刷されている
3 4566	昭和11年会員移動報告・例会講演記録	（婦一協会）
4 12724-21	婦一協会 趣旨、意見書、決議、宣言並規約、講演題目、会員名簿並出版目録（昭和16年（1941）1月）	表紙に「昭和十六年一月改訂」と印刷されている
5 7112	婦一協会・五月例会紀要	昭和4年（1929）5月17日／大倉邦彦「教化運動に就いての余の体験」の講演録
6 2702-4516	婦一協会紀要	昭和10年（1935）1月29日／大倉邦彦「学生並に成年者の精神教育—東洋的なものを求めて—」の講演録
7 4565	欧州の政局と日本	昭和11年（1936）9月30日／頭本元貞が例会で行った講演要旨をまとめた小冊子
8 5691	婦一協会（例会紀要）（邦彦講演録他）	昭和4～12年にかけて発行された例会紀要及び大会報告、計15点
9 29082	石津照塵書簡、大倉邦彦宛（昭和10年2月20日付）	婦一協会例会の速記原稿の校正依頼
10 30439	婦一協会書簡、大倉邦彦宛（昭和11年5月24日）	5月例会開催通知／4月例会の紀要も同封
11 31156	婦一協会書簡、大倉邦彦宛（昭和11年11月21日）	11月例会開催通知
12 33363	婦一協会書簡、大倉邦彦宛（昭和13年6月24日）	6月例会開催通知／5月例会の紀要も同封
13 38571	婦一協会書簡、大倉邦彦宛（昭和17年12月20日）	総会開催通知

【表1】大倉精神文化研究所所蔵「沿革史資料」中にある婦一協会関係の資料

係資料（「表1」）は他所では現存が確認されておらず、かつ未知の情報が含まれていることが判明した。

現在、当研究所では沿革史資料の目録データを、図書館情報管理システム「情報館」を通じてOPACを公開する作業を進めている。鋭意取り組んでいるが、数量が膨大であるため協会関係の書誌情報が公開されるまでにはまだ時間が必要であろう。しかし関係資料の存在は可及的速やかに明らかにすべきと考え、資料内容を整理分析することとし、さらに他機関でも関連資料の蒐集を行って、①「婦一協会会員一覧」稿、及び②昭和四年度から昭和一五年度までの「婦一協会例会での講演者一覧」を作成した。そこで本稿では、まだ不明な点もあるが、活動後期を含めた婦一協会の全体像に関する情報を提供することは関係研究の一助となると考え、簡単な見解を記し、文末に各一覧を掲載した。

一 婦一協会の会員について

「婦一協会会員一覽」稿（以下「会員一覽」稿と略記する）は、左の資料に収録されている「会員一覽」及び「会員中死亡者」を基に作成し、そこに『洪澤栄一伝記資料』『婦一協会紀要』などの情報を補足した。各資料の書誌情報は注を参照されたい。^⑤なお以下、⑩～⑭の資料名を『婦一協会趣旨等』と略記する。

- ①（大正二年二月）『婦一協会会報』第一
- ②（大正二年六月）“First report of the Association Concordia of Japan”
- ③（大正二年七月）『婦一協会会報』第二
- ④（大正二年十二月）『婦一協会会報』第三
- ⑤（大正三年七月）『婦一協会会報』第四
- ⑥（大正三年十二月）『婦一協会会報』第五号
- ⑦（大正四年十一月）『婦一協会会報』第六号
- ⑧（大正五年七月）『婦一協会会報』第八号
- ⑨（大正五年十二月）『婦一協会叢書』第一輯
- ⑩（大正七年十二月）『婦一協会趣旨、意見書、決議、宣言並規約（附会員名簿並出版目録）』
- ⑪（大正一三年十二月）『婦一協会 趣旨、意見書、決議、宣言並規約 会員名簿並出版目録』
- ⑫（昭和六年一月）『右同 昭和六年一月改訂』

⑬ (昭和一〇年一月)『婦一協会 趣旨、意見書、決議、宣言並規約、講演題目、会員名簿並出版目録 昭和一〇年一月改訂』

⑭ (昭和一六年一月)『右同 昭和一六年一月改訂』

右の一覧を見てわかるように、設立した明治四五年(一九二二)六月から解散した昭和一七年(一九四二)年二月まで、すべての年度の「会員一覧」は現在のところ確認できていない。したがって未確認の期間に入会し、かつ退会した人物が存在する可能性を否定できない。そのため、今回掲載する会員一覧を「稿」とした。

ほとんどの会員は入会・退会の年月日が不明で、『洪澤栄一伝記資料』『婦一協会紀要』などによって特定できる事例は稀である。そこで個々の入退会の時期を①～⑭の資料にある「会員一覧」における記載の有無で判断した。すなわち「会員一覧」に氏名が初めて登場した直前の期間に「入会」し、また氏名が明記されなくなった直前の期間に「退会」と見做した。協会規約には退会の勧告又は除名に関する条文はなく、第八条に「会員退会せんとするときは本会に通告すべし」とある。なお在籍中に死去した場合は、『婦一協会趣旨等』の「会員中死亡者」に氏名と死亡年月を掲示することになっていたようである。

「会員一覧」稿を通して、協会の活動状況を様々な視点で分析できよう。ここでは二点挙げてみたい。

一つ目は、会員数の変動である。現時点で確認できた所属会員の総数は二五六名で、最大数となったのは大正七年(一九一八)十一月時の一五二名であった(表2)。大正四年(一九一五)六月に「信念問題をめぐる決議」、翌五年二月に「時局問題にかかる宣言」を発表し、同年から『時事論叢』『婦一協会叢書』の刊行を始める等、会員数からみても、協会の活動は第一次世界大戦前後がもっとも盛んであったと言える。しかしその後、会員数は減少の一途をたどっていく。

	会員数	増減	入会	退会	死去
明治45年6月	40				
		36	37	1	0
大正2年2月	76				
		0	1	1	0
大正2年6月	76				
		3	3	0	0
大正2年7月	79				
		15	17	1	1
大正2年12月	94				
		18	21	3	0
大正3年7月	112				
		6	6	0	0
大正3年12月	118				
		14	16	2	0
大正4年11月	132				
		1	10	8	1
大正5年7月	133				
		1	2	0	1
大正5年12月	134				
		18	26	3	5
大正7年11月	152				
		-16	34	21	29
大正13年12月	136				
		-19	16	22	13
昭和6年1月	117				
		-9	16	9	16
昭和10年1月	108				
		-20	4	13	11
昭和16年1月	88				

【表2】 帰一協会員数の変遷
(文末の「帰一協会員一覧」稿を基に作成)

また各会員の入退時期を確認すると、大正後期に会員の構成が大きく変貌していることがわかる。大正五年一二月と大正一三年（一九二四）一二月とでは二名の増加となっているが、この期間の入会者数が六〇名に対して退会二四名、死亡三四名と、会員の四割近くが入れ替わっている。これ以後も会員の入れ替わりは多く、初期（大正前期）、中期（大正後期）、後期（昭和期）では、協会会員の構成が相当異なる様相を呈していた。こうした所属会員の变化も協会の活動実態を考察する上で、考慮すべき点であろう。

二つ目は、会員個々の所属期間である。大正後期から会員の入れ替わりが顕著に見られる一方で、長期間に互って協会に所属していた人物も存在する。

設立時から解散一年前の昭和一六年（一九四一）まで一貫して所属していたのは、①姉崎正治★、②浮田和民★、③大橋新太郎★、④シドニー・ギューリック★、⑤阪谷芳郎★、⑥佐藤鐵太郎、⑦原田助★、の七名である（以下、★印は評議員を務めたことがあることを示す）。浮田は大正三年（一九一四）頃には婦一協会の活動状況を批判するようになり、関東大震災以後は関係を絶った^⑥というが、例会や大会への参加は不明とはいえ、名簿上では解散直前まで所属していたことは注目されよう。

また設立初期に入会し解散の一年前まで所属していたのは、以下の人びとである。

（大正元、二年入会）内ヶ崎作三郎、加藤玄智、塩澤昌貞★、頭本元貞★、馬場恒吾、ガレン・フィッシャー、宮岡恒次郎★、矢野恒太、吉田静致★、山内繁雄★

（大正三年入会）ウィリアム・アキシリング、秋月左都夫★、麻生正蔵★、井上雅二★、郷隆三郎、佐藤昌介、G・ボールス、山田三良

（大正四年入会）下村宏、増田義一★

（大正五年入会）鈴木貫太郎、C・B・テンニール、林博太郎、森越太郎

このほか、長期に互って所属し評議員も務めたが、途中で退会または死去した人物として、井上哲次郎、寛克彦、片山国嘉、鎌田栄一、添田壽一、高田早苗、服部宇之吉、早川千吉郎、目賀田種太郎などがある。

個々の協会への関りについては別途検証が必要である。しかし例えば、北海道大学附属図書館には会報をはじめ協会関係の資料が所蔵されているが、これは佐藤昌介が昭和五年まで北海道帝国大学総長を務めていたためであろう。^⑦

また早稲田大学図書館所蔵の関係書籍は、高田早苗からの寄贈であることが確認できた。したがって前挙した人びとは、協会関係の資料を調査する上で特に注意を払わなければならないであろう。

本章の最後に、大倉家と婦一協会との関係について明らかとなった点を整理しておきたい。

まず大倉孫兵衛の入会時期は大正三年一月から翌四年一月までの間で、孫兵衛が道会の創立者・松村介石を積極的に支援していた時期にあたる。⁸⁾おそらく森村市左衛門または成瀬仁蔵の紹介で入会したのである。⁹⁾ただし死去まで在籍していたが、例会等に出席した記録は見出せなかった。

つぎに大倉文二は、大正七年刊『婦一協会趣旨等』収録の「会員中死亡者」に氏名と死亡年月が明記されており、会員であったことは確実である。しかし大正五年一月までの会員一覧には氏名が記載されておらず、文二の在籍期間は極めて短かったと判断される。

そして邦彦は、大正一三年一月刊の『婦一協会趣旨等』収録の「会員一覧」に氏名はなく、昭和三年（一九二八）二月の例会に出席していること¹⁰⁾から、大正一四年（一九二五）一月から昭和三年一月までの間に入会したと推定される。邦彦は大正一四年七月から『感想』の発行を始め、翌一五年三月に精神文化図書館設立にむけて欧米視察の途に就いている（翌年一月帰国）。入会が精神文化事業に本格的に着手した時期とほぼ重なっており、邦彦の思想等を検証する上で留意すべき点であろう。

二 活動後期における婦一協会例会について

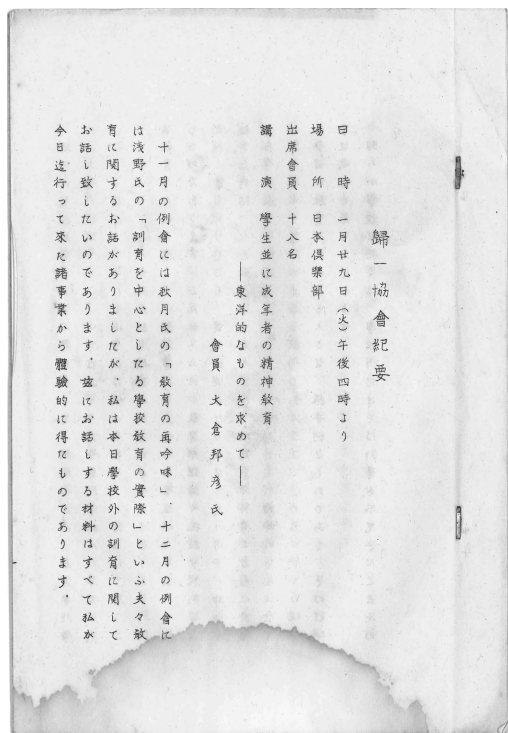
昭和四年度から昭和一五年度までの「婦一協会例会での講演者一覧」(以下、「講演者一覧」統)と略記する)は、昭和四年度から六年度までは前掲『婦一協会の挑戦と洪澤栄一』の巻末付録「婦一協会例会での講演者一覧」¹¹⁾に關係資料の情報を補足して作成し、それ以降の年度は、以下の資料に基づいて作成した。

- ① (昭和七年度)「報告」の付録「昭和七年度例会講演記録」(佛敎大学所蔵「矢吹慶輝博士旧蔵遺品」四〇九五)
- ② (昭和八年度～九年度) 昭和一〇年一月改訂の『婦一協会趣旨等』¹³⁾に収録されている「例会講演題目」
- ③ (昭和一〇年度～一五年度)「昭和一一年会員移動報告・例会講演記録」¹⁴⁾、昭和一六年一月改訂の『婦一協会趣旨等』¹⁵⁾に収録されている「例会講演題目」

昭和一六年(一九四二)一月から解散した翌年一月までの例会については、典拠となる關係資料を見出せなかった。しかし後掲する昭和一七年二月一日付婦一協会書簡に「十一月例会にて出席会員の賛成を得て」とあり、開催された可能性は高い。

さて当研究所には『婦一協会紀要』(以下、『紀要』と略記する)が数点現存している。これには次頁の画像のように、例会の日時、場所、出席会員数、講演者と演題に続いて、講演録が収録されている。昭和六年一月改訂の『婦一協会趣旨等』に、

昭和四年度以降本会例会に於ける諸講演はその都度紀要をつくり会員に頒付せり。之等の講演は近くその目録、要旨を整理出版する計画を有す。¹⁶⁾



『歸一協会紀要』（沿革史資料No.4516）

昭和10年1月29日に大倉邦彦が講演した例会記録

と記されている。「会員に頒布」とあることから他機関での所蔵について調査したところ、国立国会図書館や佛教大学にも『紀要』が現存していることが判明した¹⁷。そこで可能な限り現物を確認して、得られた情報も「講演者一覧・続」に加えた。これら『紀要』の書誌情報は、「講演者一覧・続」の「典拠／備考」欄を確認されたい。

ところで前記した付記に「整理出版する計画」とあるが、現段階ではこれに該当する資料を特定できていない。

昭和一〇年一月改訂と昭和十六年一月改訂刊行の付記にはいずれも「之等の講演はその目録、要旨を整理し、その他会員の寄稿等を加へて近く出版する計画なり」とあり、未完に終わった可能性が高い。

この「講演者一覧・続」によって、従来は「休眠状態」にあったと考えられていたが、昭和六年以降も例会はほぼ定期的に開催されていたことが明らかとなった。また各例会の「論題」から協会幹部が意識していた「時局問題」¹⁸がうかがえる。例えばマルクス主義者と仏教学者の間で論争が繰り広げられた昭和五、六年には「マルクス主義」が、満洲事変、国連脱退など外交問題が生じた昭和七、八年には「国際平和」が、そして学校教育における宗教的情操の

涵養を認める文部次官通牒が出された昭和一〇年以降には「宗教教育」が主なテーマとなっている。

ただ確認し得る限りでは、例会出席者は会員全体の二割程度にとどまっており、出席者もほぼ固定されていた。初期（大正前期）と比べると、後期（昭和期）における協会の活動は低調であったと言わざるを得ない。

三 帰一協会規約の改正について

さて今回の資料調査によって、協会の規約が四回に互って改正されたことも確認できた。ここからも協会の活動状況が窺い知れる。

一回目の改正は発足間もない大正二年（一九一三）七月で、①幹事を五名から六名に増員し（第九条）、②仮事務所の住所が「東京市小石川区指ヶ谷町七十八番地姉崎正治方」から「東京市本郷区駒込追分町三十番地」へと変更された（第四条）。これは幹事の姉崎正治がハーバード大学で「日本の文学と生活」講座を担当するため、服部宇之吉が新たな幹事となっている¹⁹。以後昭和十四年（一九三九）に死去するまで、服部は幹事として協会を支えた。

二回目の改正は大正六年（一九一七）七月で、幹事が六名から五名へ減員された（第九条）。おそらく同時に実施されたのが、幹事の交代である。辞任したのは浮田和民、洪澤栄一、森村市左衛門である。森村と洪澤はおそらく高齢のため、代わりに森村市左衛門の息子・森村開作、洪澤の女婿・阪谷芳郎が新たに就任している。注目すべきは浮田の後任がないことであろう。この規約改正が審議された大会の関係資料は、『洪澤栄一伝記資料』にも掲載されていない。この前後で協会運営をめぐる幹事の間で意見が紛糾したのではないだろうか。このほか、仮事務所は「事務所」と改められ、再び「東京市小石川区指ヶ谷町七十八番地姉崎正治方」に置くこととなった（第四条）。

三回目の改正は大正一三年（一九二四）九月である。それまでの協会運営は、洪澤と森村からの年間一〇〇〇円の寄附によって支えられていた。⁽²⁰⁾しかし森村は大正八年（一九一九）に死去し、大正一二年（一九二三）九月一日の関東大震災で各会員の生活にも大きな影響が生じた。⁽²¹⁾そのため寄附金に依拠しない経済基盤を確立しようとしたのである。まずそれまで行ってきた事業のうち「雑誌の発行」を廃止した（第三条第二項の削除）。そして会費を六円から一二円へと増額し、一〇〇円以上の会費を一括して納付した場合は以後会費を必要としない「終身会員」制度が新たに設けられた（第六条）。運営基金を確保すべく「終身会員」制度は「即時実行」されたようであるが、応募の有無は不明である。このほか、「事務所を東京市に置く」と変更され（第四条）、入会の許諾を「申込後一ヶ月」の評議員会で評議することとなっている（第五条）。

そして四回目の改正が、昭和四年（一九二九）一月である。設立当初は壮年であった会員も年老いて、死去または退会する者が相次いでいた。そこで会費を十二円から六円へと半額とし（第六条）、新規会員を獲得して協会の「隆盛」を計ろうとしたのである。しかし会費の減額によって運営資金の不足が想定されるため、姉崎は洪澤に「（洪澤・森村）両家より五百円ツ、」（其他会員有力者中より百円ツ、ノ寄付者拾名位）を得たいと伝えている。⁽²²⁾洪澤はこれを承諾したらしく、昭和四年度の収支計算書には五〇〇円の寄付金が明記されている。⁽²³⁾そして「思想方面」での充実を目的に、幹事を五名から六名へと増員した（第九条）。新たに幹事に就任したのが矢吹慶輝である。佛教大学所蔵「矢吹慶輝博士旧蔵遺品」に、『紀要』が多数現存しているのはそのためである。

おわりに

矢吹が幹事に就任した昭和四年から『紀要』が頒布されるなど、協会の立て直しが図られ、矢吹が中心となり、東京帝国大学宗教学研究室のスタッフによって運営された。²⁴しかし昭和一四年（一九三九）六月に矢吹が、ついで翌月には長く幹事を務めていた服部宇之吉も死去する。昭和一六年一月改訂の『婦一協会趣旨等』を見ると、麻生正蔵が新たに幹事に就いているが、幹事一名が欠員となっている。矢吹と服部の死は、協会運営に相当な影響を及ぼしたのであろう。いずれにせよ、「矢吹慶輝博士旧蔵遺品」には、協会関係の資料は昭和一三年度までしか現存していない。昭和一四年度から解散までの活動実態については、別の会員の旧蔵資料から見出されるまで待たねばならない。

最後に、解散が審議された最後の例会の案内状²⁵を紹介して締めくくりにする。

拝啓 時下益々御清祥奉賀候。

偕先に御通知申上候本会の将来に関し、幹事会の提案として、本会成立以来恰も三十年に際し茲に一先づ活動を終結する事、十一月例会にて出席会員の賛成を得て仮議決仕候。依て今回総会を開き右議決を本極と致度、即ち本会の解散を議題として御審議を乞ひ候。右議決愈よ決定の上は本月例会が本会最後の会合となるべきにつき、午餐を共に致度候間、万障御繰合せ御出席被成下度。此段御案内申上候。敬具

昭和十七年十二月十日

婦一協会

大倉邦彦殿

記

一、日時 十二月二十日（日）午前十一時

一、場所 丸ノ内三丁目丸之内会館

一、議事 幹事の報告につゞきて本会解散の件

追而出欠来る十六日までに御返事賜度候。

注

- (1) 高橋昌郎「婦一協会」項（『国史大辞典』第四卷、吉川弘文館、昭和五十八年）、帰山玲子「婦一協会」項（『岩波キリスト教辞典』岩波書店、平成十四年）などを参照。
- (2) 大倉邦彦は昭和六、七年度に評議員を務めている（沿革史資料№8718『婦一協会 趣旨、意見書、決議、宣言並規約 会員名簿並出版目録 昭和六年一月改訂』）。なお評議員の任期は二年（規約第一条）。
- (3) 沿革史資料№12724-25『婦一協会 趣旨、意見書、決議、宣言並規約、講演題目、会員名簿並出版目録 昭和一六年一月改訂』に収録されている「会員中死亡者」参照。
- (4) 山口輝臣「婦一」というグローバル化と「信仰問題」―姉崎正治を中心に（見城悌治他編『婦一協会の挑戦と渋澤栄一』ミネルヴァ書房、平成三〇年）二二三頁。高橋原は東京大学宗教学研究室所蔵の資料等を利用して、昭和初期の活動実態を紹介分析しているが（同「婦一協会の理念とその行方―昭和初期の活動」『東京大学宗教学年報』二〇、東京大学文学部宗教学研究室、平成一四年）、別稿で「関東大震災以降の史料が乏しく、活動の実態解明には課題を残した」とも述べている（同「書評見城悌治編『婦一協会の挑戦と渋澤栄一 グローバル時代の「普遍」をめざして』」（『日本思想史学』五〇、日本思想史学会、平成三〇年）。
- (5) ①東京大学附属図書館蔵、請求番号ZB:24 ②早稲田大学図書館蔵、請求記号ZL 00475 ③～⑧国立国会図書館蔵、請求記号145-2、⑨国立国会図書館蔵、請求記号HB1-E5、⑩北海道大学附属図書館蔵、請求記号和文パンフ/3725、⑪大倉精神

文化研究所蔵、沿革史資料№12724-48、^⑫同上、沿革史資料№8717、^⑬同志社大学図書館蔵、請求記号0611K318、^⑭大倉精神文化研究所蔵、沿革史資料№12724-21。

(6) 姜克實「浮田和民の婦一理想―婦一協会との関わりについて」(前掲注4『婦一協会の挑戦と洪澤栄一』)。

(7) 高橋原は『婦一協会会報』第一〇号、第二一号を未見としている(前掲注4「婦一協会の理念とその行方―昭和初期の活動」)が、北海道大学附属図書館が所蔵している。なお同館所蔵の『会報』第一(再版・大正二年八月、第一〇(大正二〇年九月)には、「記念文庫佐藤昌介」の印が押されている。

(8) 拙稿「世の為に田を耕す―大倉家三代の生き方―第三十八回研究所資料展の報告を兼ねて―」(『大倉山論集』六五、大倉精神文化研究所、平成三十一年)を参照。なお松村も協会会員であった。

(9) 入会するにあたっては、規約第五条に「会員二名以上の紹介」が必要と定められている。この点について、姉崎は「会員を入れる時は、此会の目的をよく説明してからでないと入れなかつた。根本は思想・道德の問題であつて、広い意味の社会問題と云ふ事を考へても欲しいと云ふことである。」と説明している(「姉崎正治談話筆記」洪澤青淵記念財団竜門社編『洪澤栄一伝記資料』第四六巻(洪澤栄一伝記資料刊行会、昭和三十七年)四一六頁)。

(10) 前掲注9『洪澤栄一伝記資料』第四六巻、六九〇頁。

(11) なお大正七年(一九一八)十一月一日の例会は「講演者等の詳細は不明」とされているが、早稲田大学図書館所蔵の小冊子(請求番号E09 0354)より、中島久万吉「資本と労働との調節に就て」であったことが確認できる。

(12) 本稿で矢吹慶輝旧蔵資料に掲示した数字は、佛教大学浄土宗文献センター編『佛教大学浄土宗文献センター矢吹慶輝博士旧蔵遺品目録』(佛教大学浄土宗文献センター、平成八年)の整理番号である。

(13) 書誌情報は、前掲注5の⑬を参照。

(14) 大倉精神文化研究所蔵、沿革史資料№456。

(15) 書誌情報は、前掲注5の⑭を参照。

(16) 「付記」(「婦一協会 趣旨、意見書、決議、宣言並規約 会員名簿並出版目録 昭和六年一月改訂」一七頁)。

- (17) 矢吹慶輝旧蔵資料に『紀要』が存在することは、前掲注4「書評 見城悌治編『婦一協会の挑戦と洪澤栄一グローバル時代の「普遍」をめざして』」によって知った。資料閲覧にあたっては、佛教学大学宗教文化ミュージアムの熊谷貴志学芸員にご高配を賜った。ここに記して謝意を表したい。
- (18) 林淳「一九三〇年、マルクス主義者と宗教学者の論争」(『人間文化』二二、愛知学院大学人間文化研究所、平成一九年)など参照。
- (19) 磯前順一・深澤英隆編『近代日本における知識人と宗教…姉崎正治の軌跡』(東京堂出版、平成一四年)六五―六六頁、前掲注9『洪澤栄一伝記資料』第四六卷、四八三頁。
- (20) 「婦一協会の件につき姉崎博士来談(一月廿四日)」(前掲注9『洪澤栄一伝記資料』第四六卷、七一三頁)。
- (21) 大正一二年七月から翌一三年六月までの収支計算書には「(大正一二)年下半季分は震災の爲め之か払込を辞退したるを以て収入なし」とある(前掲注9『洪澤栄一伝記資料』第四六卷、六八一頁)。
- (22) 前掲注20「婦一協会の件につき姉崎博士来談(一月廿四日)」。「洪澤栄一伝記資料」には「右は年次を記さざれども、昭和四年度の文書中にあれば是年のものと見做す」とあるが、規約の改正内容と一致するため、昭和四年の資料で間違いない。
- (23) 「自昭和四年一月一日至同年二月卅一日婦一協会収支計算書」(前掲注9『洪澤栄一伝記資料』第四六卷、七二五頁)。昭和七年度は、森村市左衛門(開作)と服部金太郎が五〇〇円ずつ寄附している(仏教大学蔵「矢吹慶輝慶輝博士旧蔵遺品」四〇九五)。
- (24) 前掲注4「婦一協会の理念とその行方・昭和初期の活動」参照。なお「はじめに」で言及した大倉邦彦の講演録の校正を依頼する石津照璽書簡が、当研究所に現存する(昭和一〇年二月二〇日付、沿革史資料No.29082)。石津も昭和五年(一九三〇)に同室のスタッフ(副手)となっている(東京大学宗教学研究室内HP「宗教学研究室スタッフの変遷」(http://www.lu-tokyo.ac.jp/religion/history_2.html) 令和二年二月一日閲覧))。
- (25) 沿革史資料No.29082。邦彦がこの最後の例会に出席したかどうかは不明。

資料一 「帰一協会の会員一覧」稿

《凡例》

- 一、一覧の行は会員氏名で、配列は五十音順とした。
- 一、一覧の列は「会員一覧」が公開または作成された年月で、「年／月」で表記した。各「会員一覧」の典拠は、本文中の二七四～二七五頁を参照。
- 一、各会員の未所属期間は網掛けとした。また評議員を務めていた時期は●、幹事を務めていた時期は○で表記した。

一、入会したと推定される時期には「入」、退会したと推定される時期には「退」と表記した。ただし『協会趣旨等』収録の「会員中死亡者」に記載されている場合には、該当する時期に「死」と表記した。

	明治45 /6	大2 /2	大2 /6	大2 /7	大2 /12	大3 /7	大3 /12	大4 /11	大5 /7	大5 /12	大7 /11	大3 /12	昭和6 /1	昭和10 /1	昭和16 /1
1 R・C・ア ストロンダ								入				死			
2 相屋 一郎介												入		○	○
3 赤松 秀景													入		死
4 ウィリアム フキスリンド					入										
5 秋月左都夫							入							○	○
6 浅野 孝之													入		
7 朝吹 英二										死					
8 蘆野敏三郎					退										
9 麻生 正蔵				入									○		●
10 姉崎 正治	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
11 天野 為之								入	●	●	退				

		明45 /6	大2 /2	大2 /6	大2 /7	大2 /12	大3 /7	大3 /12	大4 /11	大5 /7	大5 /12	大7 /11	大3 /12	昭6 /1	昭10 /1	昭16 /1
12	五十嵐直三												入			
13	石田新太郎							入					退			
14	石橋智信										入					
15	石橋甫	入										退				
16	磯野敬										入		死			
17	一戸兵衛				入								退			
18	井上哲次郎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退			
19	井上雅二					入								○	○	○
20	今國信一良										入			○	○	○
21	今村力三郎															
22	岩野直英											入		○		○
23	S・H・ウ エイライト	入										退				
24	植木謙英													入	退	
25	上田敏	○	○	○	○	○	○	○	○	○	死					
26	浮田和民	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○			
27	鶴澤聡明						入								退	
28	内ヶ嶋作三郎	入														
29	宇野圓空												入		○	○
30	江口定條												入			
31	江原素六											死				
32	海老名弾正														退	
33	遠藤隆吉	入							退							
34	大石正巳	入							退							
35	大内青鬱													死		
36	大岡青造	入												○		
37	大倉邦彦															
38	大倉文二							入			死					
39	大倉孫兵衛							入				死	死			

[illegible]

		明45 /6	大2 /2	大2 /6	大2 /7	大2 /12	大3 /7	大3 /12	大4 /11	大5 /7	大5 /12	大7 /11	大3 /12	昭6 /1	昭10 /1	昭16 /1
70	窪田 静太郎															
71	D・C・グリン				死							入				退
72	黒井 幹次郎										入	退				
73	黒岩 周 六	入										死				
74	黒田 恒 馬											死				
75	黒田 長 和										入			退		
76	森 木 敏 賢	○	○	○	○	○	○	○	○	退						
77	G・I・クルン					入						退				
78	郷 隆 三 郎					入					退					
79	ハッパニ=コツ	入														
80	H・E・コルペン					入									退	
81	小久保 亨七								入				退			
82	五代 龍 作				入								退			
83	五島 清太郎			入										退		
84	小林 一 郎											入				
85	近 藤 慶 平	入										死				
86	斎 藤 七 五 郎					入							死			
87	斎 藤 惣 一													入		
88	阪 井 徳 太 郎	入													退	
89	阪 谷 芳 郎		○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●
90	笹 川 澤	入														
91	佐々木 勇之助	入							退						退	
92	佐藤 鋼次郎											死				
93	佐藤 昌 介					入										
94	佐藤 鐵太郎															
95	佐野 善 作							入				退				
96	澤 柳 政 太 郎												死			
97	椎 尾 辨 匡															
98	塩 澤 昌 貞	入									○		入			

[illegible]

		明45 /6	大2 /2	大2 /6	大2 /7	大2 /12	大3 /7	大3 /12	大4 /11	大5 /7	大5 /12	大7 /11	大3 /12	昭6 /1	昭10 /1	昭16 /1
130	K・T・タタニ										入	退				
131	田所 美治						入					退				
132	田中 次郎												○			
133	田中 唯一郎					入					入	死		死		
134	田中 穂積					入								退		
135	田村 新吉							入							死	
136	岡 琢 磨				入									死		
137	段 隆 介									入		死				
138	千葉 豊治										入					
139	津田 敬武											入				
140	細 島 佳 吉					入							退			
141	坪野 平太郎		○	○	○	○	○	○	○	○	○	退				
142	頭 本 元 貞	入											○			
143	手 島 精 一		退													
144	C・B・ラズニ4								入						○	
145	土 肥 修 策											入		○		○
146	時 枝 誠 之											入			死	
147	土 岐 備		入												死	
148	徳富 猪一郎	入				退										
149	都 倉 義 一											入		死		
150	床 次 竹 二 郎														死	
151	友 枝 高 彦										入		○	○		
152	豊 川 良 平	入										死				
153	内 藤 久 寛										入					
154	永 井 亨											入				
155	長 井 真 琴														入	
156	中 島 久 萬 吉				入								○			
157	中 島 半 次 郎							入						死		
158	中 島 力 造	○	○	○	○	○		○	○	○	○	死				

[illegible]

		明45 /6	大2 /2	大2 /6	大2 /7	大2 /12	大3 /7	大3 /12	大4 /11	大5 /7	大5 /12	大7 /11	大3 /12	昭6 /1	昭10 /1	昭16 /1
190	T・K・ヘムツル										退					
191	G・ボルス						入		入				●	●	●	●
192	穂積重遠										入					
193	榎永茂助											入		死		
194	堀内三郎											入	退			
195	堀越善重郎									入						死
196	本郷房太郎	入											退			
197	本多日生			入									○	死		
198	クレイ＝マコト	入												死		
199	間島興喜											入		○	○	○
200	増田義一							入					○			
201	増田明六											入	死			
202	松井茂					入						入	○	○		
203	松浦政泰												死			
204	D・R・マクナジ								入							退
205	松平直亮	入						退							入	
206	松谷元三														入	
207	前田多門														入	退
208	松村介石					入			退							
209	松村亀太郎														入	
210	松本亦太郎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		退		
211	丸山鶴吉														入	
212	御本幸吉							入								
213	水野鯉太郎							入								
214	三井高修															退
215	三村君平	入							○	○	○	○	○			
216	宮岡恒次郎	入								○	○	○	○			
217	宮岡直記					入		入					退	退		
218	宮川邦基							入				退				

[illegible]

		明45 /6	大2 /2	大2 /6	大2 /7		大2 /12		大3 /7	大3 /12		大4 /11		大5 /7		大5 /12		大7 /11		大3 /12	昭6 /1	昭10 /1	昭16 /1
249	吉田 静 致					入														○	入		
250	シヨウニロヲノド 脇 田 勇															入		死		退			
251	脇 田 豊 治																	死					
253	和 田 豊 治																						
254	渡 邊 海 旭																			入	死		
255	渡 邊 得 男																	入		退			
256	セキドニニカオボキ																			入			

(付記)

昭和一〇年一月と昭和一六年一月の「会員一覧」に「安川撫松」の氏名がある。「撫松」は安川敬一郎(234)の号で、大正二年一二月から名簿に記載されている。しかし安川は昭和九年(一九三四)一月三〇に死去しており、なぜ「会員中死亡者」に転記されなかったのであろうか。本一覧では会員のままとし、後考を俟ちたい。

資料二 昭和四年度から昭和一五年度までの「婦一協会例会での講演者一覧」

《凡例》

一、本一覧の列項目は『婦一協会の挑戦と渋澤栄一』の付録「婦一協会例会での講演者一覧」に準じた。

一、「典拠／備考」欄では、上記「婦一協会例会での講演者一覧」を典拠とした場合、『婦一協会』と略記した。また大倉精神文化研究所所蔵「沿革史資料」が典拠である場合、「大倉・資料番号」と表記した（例：大倉1274-21）。その他の資料については、所蔵先を次のように略記した。①国立国会図書館憲政資料室⇒憲政、②同志社大学図書館⇒同志社、③佛教大学所蔵「矢吹慶輝博士旧蔵遺品」⇒矢吹。

一、典拠資料が『婦一協会紀要』である場合は★で明示した。

例会（実施日）	講演者「論題」	参加者	典拠／備考
一月総会 （昭和4年1月●日）	井染祿郎「ソビエト露西亜の東洋に於ける革命指導の実情（世界革命の実情）」	？	『婦一協会』、矢吹4160
二月例会 （昭和4年2月22日）	友枝高彦「世界宗教会議と国際文化交流とについて」	？	『婦一協会』、矢吹4160
三月例会 （昭和4年3月22日）	大内兵衛「経済学における現時の傾向」	？	『婦一協会』、矢吹4160
四月例会 （昭和4年4月19日）	加藤咄堂「所謂教化運動の種々相」	14名	『婦一協会』、矢吹4160、★大倉5691
五月例会 （昭和4年5月17日）	大倉邦彦「教化運動についての余の体験」	10名	『婦一協会』、矢吹4160、★大倉7112
六月特別例会 （昭和4年6月3日）	タゴール歓迎茶話会	43名	『婦一協会』、矢吹4160、★大倉5691
七月例会 （昭和4年7月8日）	加藤精神「思想問題に関する私見」	？	『婦一協会』、矢吹4160
八月、九月 （昭和4年8月、9月）	休会	？	矢吹4160
十月例会 （昭和4年10月18日）	山内繁雄「遺伝学上より見たる産児制限の批判」	？	『婦一協会』、矢吹4160
十一月例会 （昭和4年11月4日）	原田助「米国魂とは何ぞや」	24名	『婦一協会』、矢吹4160、★大倉5691
十二月例会 （昭和4年12月●日）	牧野英一「行刑の改良とその思想的意義」	？	『婦一協会』、矢吹4160

例会（実施日）	講演者「論題」	参加者	典拠／備考
一月総会 （昭和5年1月24日）	矢吹慶輝「新日本の思想問題（1）」	21名	『婦一協会』（17日）、矢吹4095
二月例会 （昭和5年2月21日）	矢吹慶輝「新日本の思想問題（2）」	？	『婦一協会』
三月例会 （昭和5年3月28日）	二木保幾「仏教とマルキシズム」	18名	『婦一協会』、★矢吹4095
四月例会 （昭和5年4月25日）	木村龍寛「聖雄ガンジーの運動及びそれを中心としたる印度現今の思想」	？	『婦一協会』、矢吹4160
五月例会 （昭和5年5月30日）	林博太郎「最近欧米の教育思潮」	18名	『婦一協会』、★矢吹4095
六月例会 （昭和5年6月27日）	酒田秀一「ソヴィエツトロシアの社会事情」	？	『婦一協会』
七月、八月 （昭和5年7月、8月）	休会カ	？	『婦一協会』
九月例会 （昭和5年9月29日）	宇野圓空「植民地の宗教事情」	？	『婦一協会』
十月例会 （昭和5年10月24日）	下村宏「我が国に於ける現代政治経済事情」	？	『婦一協会』
十一月例会 （昭和5年11月13日）	伝道問題調査懇話会（1）	？	『婦一協会』
十二月例会 （昭和5年12月27日）	伝道問題調査懇話会（2）	？	『婦一協会』
一月総会 （昭和6年1月22日）	姉崎正治「現代的と宗教的」	27名	『婦一協会』、大倉5691
二月例会 （昭和6年2月27日）	今村力三郎「思想に基く犯罪（主として京都学生事件の話）」	？	『婦一協会』
三月例会 （昭和6年3月27日）	河合栄次郎「学生思想問題について」	21名	『婦一協会』（19日）、★矢吹4095
四月例会 （昭和6年4月24日）	平田勲「日本共産党の誤謬」	21名	『婦一協会』、★大倉5691、★矢吹4095
五月例会 （昭和6年5月29日）	河合栄次郎「マルキシズム批判」	35名	『婦一協会』、★矢吹4095
六月例会 （昭和6年6月29日）	矢吹慶輝「反宗教運動について」	23名	『婦一協会』、★矢吹4158
七月、八月 （昭和6年7月、8月）	休会カ	？	
九月例会 （昭和6年9月25日）	宇野圓空「マルキシズムの宗教史観批判」	29名	『婦一協会』（15日）、★矢吹4095
十月例会 （昭和6年10月27日）	姉崎正治「仏教の社会観と社会案」	？	『婦一協会』
十一月例会 （昭和6年11月24日）	故洪沢子爵追憶談話会	28名	『婦一協会』、★矢吹4095
十二月例会 （昭和6年12月28日）	頭本元貞「満洲事変に関する世界の論調」	25名	★憲政「真崎甚三郎関係文書」2098

一月総会 (昭和7年1月26日)	高島米峰「僧侶及び寺院の行衛」	?	矢吹4095
二月例会 (昭和7年2月23日)	椎尾辨匡「有信有業の教育」	34名	★矢吹4095
三月例会 (昭和7年3月29日)	矢野恒太「教育の第一目的」	?	矢吹4095
四月例会 (昭和7年4月28日)	尾高豊作「初等教育に関する最近の思潮－特に郷土教育に就いて」	16名	★矢吹4095
五月例会 (昭和7年5月26日)	大村桂巖「青年教育と宗教教育」	?	矢吹4095
特別懇話会 (昭和7年6月3日)	国際平和に就いて懇話会（米国伝道再調査団、日本宗教協会、婦一協会）	38名	★矢吹4095
六月例会 (昭和7年6月29日)	田澤義鋪「日米青年団の現状」	21名	★矢吹4095
七月、八月 (昭和7年7月、8月)	休会	?	矢吹4095
九月例会 (昭和7年9月30日)	矢吹慶輝「植民地統治に関する一考察」	18名	★矢吹4095、★矢吹4159
十月例会 (昭和7年10月25日)	井上雅二「韓国統治の経験と満洲」	15名	★矢吹4095
十一月例会 (昭和7年11月25日)	山内繁雄「日本に関するアメリカの輿論」	?	矢吹4095
十二月例会 (昭和7年12月21日)	松井茂「欧米政治界の感想」	?	矢吹4095
一月総会 (昭和8年1月27日)	秋月左都夫「国際聯盟に関して」	22名	同志社『婦一協会趣旨等』、★矢吹4095
二月例会 (昭和8年2月23日)	頭本元貞「キリスト教伝道の行詰り」	?	同志社『婦一協会趣旨等』
三月例会 (昭和8年3月23日)	神林隆浄「仏教の将来」	17名	同志社『婦一協会趣旨等』、★矢吹4095
四月例会 (昭和8年4月26日)	今岡信一良「伝道の方針の改革（キリスト教伝道の転向－米国伝道調査団の報告について）」	?	『婦一協会』、同志社『婦一協会趣旨等』
五月例会 (昭和8年5月16日)	「宗教問題懇談会（世界宗教会議に就いて）」（日本宗教協会・婦一協会）	?	同志社『婦一協会趣旨等』
六月例会 (昭和8年6月13日)	新渡戸稲造「日米文化交流について」	18名	同志社『婦一協会趣旨等』、★憲政「下村宏関係文書(その2)」340（目録に昭和7年とあるが誤り）、★矢吹4095
七月例会 (昭和8年7月11日)	「宗教問題懇談会（世界宗教会議出席者送別を主として）」（日本宗教協会・婦一協会）	54名	同志社『婦一協会趣旨等』、矢吹4095
八月、九月 (昭和8年8月、9月)	休会		同志社『婦一協会趣旨等』

例会（実施日）	講演者「論題」	参加者	典拠／備考
十月例会 （昭和8年10月5日）	「宗教問題懇談会（姉崎、中山両氏婦朝及びマシウス博士来朝歓迎を主として）」（世界宗教平和会議日本委員・日本宗教協会・婦一協会）	？	同志社『婦一協会趣旨等』
十一月例会 （昭和8年11月15日）	洪沢子爵追悼懇話会（「追悼」阪谷芳郎・堀越善重郎・海老名弾正）	30名	『洪沢栄一伝記資料』第46巻、★憲政「下村宏関係文書（その2）」329（目録に昭和9年とあるが誤り）、★矢吹4095
十二月例会 （昭和8年12月15日）	相原一郎介「ナチスの宗教文化政策に就いて」	18名	同志社『婦一協会趣旨等』、★矢吹4095
一月大会 （昭和9年1月31日）	石橋智信「ユダヤ人問題について」	16名	同志社『婦一協会趣旨等』、★矢吹4095
二月例会 （昭和9年2月23日）	矢吹慶輝「西洋人の観たる日本国民性」	19名	同志社『婦一協会趣旨等』、★矢吹4095、★矢吹4156
三月例会 （昭和9年3月19日）	関寛之「親子同伴死の流行について」	19名	同志社『婦一協会趣旨等』、★矢吹4095
四月例会 （昭和9年4月27日）	頭本元貞「満洲国に関して」	？	同志社『婦一協会趣旨等』
五月特別茶話会 （昭和9年5月28日）	姉崎正治「国際文化の問題」	？	同志社『婦一協会趣旨等』
六月例会 （昭和9年6月29日）	洪沢敬三「奄美十島の話」	？	同志社『婦一協会趣旨等』
七月、八月 （昭和9年7月、8月）	休会		同志社『婦一協会趣旨等』
九月例会 （昭和9年9月28日）	正木亮「財政上より見たる行刑と教化上より見たる行刑」	？	同志社『婦一協会趣旨等』
十月特別茶話会 （昭和9年10月23日）	姉崎正治「現代文化の一問題」	48名	同志社『婦一協会趣旨等』、★矢吹4095
十一月例会 （昭和9年11月21日）	秋月左都夫「教育の再吟味」	？	同志社『婦一協会趣旨等』
十二月例会 （昭和9年12月19日）	浅野孝之「訓育を中心としたる学校教育の実際」	？	同志社『婦一協会趣旨等』
一月例会 （昭和10年1月29日）	大倉邦彦「学生並に成年者の精神教育—東洋的なものを求めて—」	18名	大倉1274-21、★大倉2702・大倉4516・大倉5691
二月例会 （昭和10年2月26日）	中根環堂「禪の教育について」	12名	大倉1274-21、★大倉5691
三月例会 （昭和10年3月28日）	秋月左都夫「教育の再吟味—美濃部博士の学説問題に因みて—」	21名	大倉1274-21、★矢吹4095
四月例会 （昭和10年4月26日）	秋月左都夫「教育本部の設置に関して」	14名	大倉1274-21、★矢吹4095
五月例会 （昭和10年5月28日）	神崎一作「神道と宗教」	14名	大倉1274-21、★矢吹4095
六月例会 （昭和10年6月25日）	矢吹慶輝「最近の宗教教育問題について」	20名	大倉1274-21、★矢吹4146、4157

七月、八月 (昭和10年 7 月、 8 月)	休会	?	大倉1274-21
九月例会 (昭和10年 9 月30日)	鳥居龍藏「満蒙の宗教－特に現時の状況－」	?	大倉1274-21
十月例会 (昭和10年10月28日)	友枝高彦「ナチ独逸の精神問題」	?	大倉1274-21
十一月例会 (昭和10年11月26日)	姉崎正治「人の心の動き」	?	大倉1274-21
十二月例会 (昭和10年12月20日)	岩野直英「法華経より見たる我が国体」	?	大倉1274-21
一月総会 (昭和11年 1 月31日)	下村壽一「教学と宗教の問題」	21名	大倉4566、大倉1274-21、 ★矢吹4095
二月例会 (昭和11年 2 月)	休会		大倉4566、大倉1274-21
三月例会 (昭和11年 3 月27日)	姉崎正治「聖徳太子の世界観殊に国家観」	?	大倉4566、大倉1274-21
四月例会 (昭和11年 4 月28日)	浅野孝之「宗教的情操の滋養に関する依命通牒を背景とする学校に於ける宗教教育」	18名	大倉4566、大倉1274-21、 ★大倉31156、★矢吹4095
五月例会 (昭和11年 5 月29日)	今岡信一良「宗教教育の具体的方法」	34名	大倉4566、大倉1274-21、 ★大倉5691、★矢吹4095
六月例会 (昭和11年 6 月26日)	入沢宗寿「学校に於ける宗教教育の問題」	17名	大倉4566、大倉1274-21、 ★矢吹4095
七月、八月 (昭和11年 7 月、 8 月)	休会		大倉4566、大倉1274-21
九月例会 (昭和11年 9 月30日)	頭本元貞「欧州政局と日本」	?	大倉4565、大倉4566、大倉 1274-21
十月例会 (昭和11年10月26日)	姉崎正治「文明危機の問題」	40名	大倉4566、大倉1274-21、 ★矢吹4153
十一月例会 (昭和11年11月27日)	矢野恒太「国民経済と人口問題」	22名	大倉4566、大倉1274-21、 ★矢吹4144
十二月例会 (昭和11年12月12日)	座談会「最近の類似宗教団体問題」	18名	大倉4566、大倉1274-21、 ★矢吹4145
一月例会 (昭和12年 1 月29日)	宇野圓空「最近宗教問題に関する批判について」	18名	大倉1274-21、★大倉5691、 ★矢吹4148
二月例会 (昭和12年 2 月27日)	矢吹慶輝「祭政一致と政教問題」	25名	大倉1274-21、★大倉5691、 ★矢吹4149
三月例会 (昭和12年 3 月30日)	下村宏「癡の話」	?	大倉1274-21、★矢吹4150
四月例会 (昭和12年 4 月28日)	高谷覚蔵「最近ソビエツトの政治と文化」	?	大倉1274-21、★矢吹4151
五月例会 (昭和12年 5 月15日)	木津無庵「師範学校巡講の経験について」	?	大倉1274-21
六月例会 (昭和12年 6 月29日)	川上清吉「師範学校及小学校に於ける宗教教育の状況」	22名	大倉1274-21、★矢吹4152

例会（実施日）	講演者「論題」	参加者	典拠／備考
七月、八月 （昭和12年7月、8月）	休会		大倉1274-21
九月例会 （昭和12年9月30日）	姉崎正治「本年旅行の所見」	35名	大倉1274-21、 ★大倉5691、★矢吹4162-1
十月例会 （昭和12年10月29日）	頭本元貞「事変と世界の与論」	？	大倉1274-21
十一月例会 （昭和12年11月26日）	松井茂「北支皇軍を慰問して将来の国策を思ふ」	15名	大倉1274-21、★大倉5691、 ★矢吹4154
十二月例会 （昭和12年12月21日）	井上雅二「パリーの国際人口会議に出席して」	17名	大倉1274-21、★大倉5691、 ★矢吹4155
一月例会 （昭和13年1月29日）	矢吹慶輝「国民精神総動員の新指針について」	18名	大倉1274-21、★大倉5691
二月例会 （昭和13年2月26日）	今村力三郎「帝人事件とその真相」	？	大倉1274-21
三月例会 （昭和13年3月29日）	高島米峰「時局に際して」	？	大倉1274-21
四月例会 （昭和13年4月28日）	穂積重遠「教育審議会について」	？	大倉1274-21、★憲政「下村 宏関係文書（その2）」435
五月例会 （昭和13年5月30日）	今岡信一良「キリスト教界に於ける現時の諸問題」	？	大倉1274-21、★大倉33363
六月例会 （昭和13年6月30日）	内ヶ崎作三郎「支那に於ける宗教及思想問題」	？	大倉1274-21、★矢吹4095
七月、八月 （昭和13年7月、8月）	休会		大倉1274-21
九月例会 （昭和13年9月21日）	水野梅曉「支那の宗教について」	？	大倉1274-21
十月例会 （昭和13年10月28日）	姉崎正治「不安の世界」	？	大倉1274-21
十一月例会 （昭和13年11月29日）	宇野圓空「農村社寺の信仰について」	？	大倉1274-21、★矢吹4095
十二月例会 （昭和13年12月16日）	姉崎正治・高島米峰・松井茂・矢吹慶輝 「時局と思想及宗教について」（第一回）	？	大倉1274-21
一月例会 （昭和14年1月31日）	今岡信一良・大村桂蔵「時局と思想及宗教 について」（第二回）	？	大倉1274-21、★矢吹4095
二月例会 （昭和14年2月28日）	神林隆浄「時局と思想及宗教について」 （第三回）	？	大倉1274-21、★矢吹4095
三月例会 （昭和14年3月29日）	相原一郎介「時局と思想及宗教について」 （第四回）	？	大倉1274-21
四月例会 （昭和14年4月26日）	河口慧海「満蒙に於ける喇嘛の現状について」	24名	大倉1274-21、矢吹4095
五月 （昭和14年5月）	休会		大倉1274-21
六月例会 （昭和14年6月26日）	友枝高彦「ナチ独逸の文化政策について」	？	大倉1274-21

七月、八月 (昭和14年7月、8月)	休会		大倉1274-21
九月例会 (昭和14年9月26日)	秋月左都夫「ポーランド問題について」	?	大倉1274-21
十月例会 (昭和14年10月23日)	高楠順次郎「仏教の全貌」	?	大倉1274-21
十一月例会 (昭和14年11月)	休会		大倉1274-21
十二月例会 (昭和14年12月11日)	姉崎正治「旅の中の所見」	?	大倉1274-21
一月例会 (昭和15年1月26日)	浅野孝之「中支を視察して」	?	大倉1274-21
二月例会 (昭和15年2月22日)	津田敬武「桑港万博に現れたる平和思想とその運動」	?	大倉1274-21
三月例会 (昭和15年3月28日)	下村宏「中央新政権について」	?	大倉1274-21
四月例会 (昭和15年4月30日)	田澤義鋪「時局と大国民運動」	?	大倉1274-21
五月例会 (昭和15年5月28日)	林屋友次郎「仏教の応用方面」	?	大倉1274-21
六月例会 (昭和15年6月26日)	長井真琴「対支文化工作の一面」	?	大倉1274-21
七月、八月 (昭和15年7月、8月)	休会		大倉1274-21
九月例会 (昭和15年9月30日)	山内繁雄「在米の所感」	?	大倉1274-21
十月例会 (昭和15年10月24日)	高島米峰「新体制について」	?	大倉1274-21
十一月例会 (昭和15年11月28日)	姉崎正治「十七条憲法について」(第一回)	?	大倉1274-21
十二月例会 (昭和15年12月23日)	姉崎正治「十七条憲法について」(第二回)	?	大倉1274-21
昭和16年、昭和17年1月～10月	不明		
十一月例会 (昭和17年11月)	不明	?	大倉38571
十二月例会及び総会 (昭和17年12月20日)	「幹事報告」「本会解散の件」	?	大倉38571